

Hand in Hand

海を渡る鳥は、波間を漂う流木に憩うという。離婚—それは旅の半ばの一つの出来事。
新たな旅立ちをした女たちはいま手を取り合い、女であるがゆえの偏見と差別に向きあう。
ハンド・イン・ハンドは、生きやすい社会をめざし、支えあう女たちの流木である。

Vol. 221

【目に見えない危機】

◇ビル・ゲイツがアフリカの子どもたちのために800億円の寄付表明をしたかと思えば、女優シャロンテートが一声かけただけで、100万ドルもの義援金が集まる。アフリカの子どもたちのためにワクチンはもちろん必要ですが、一日1ドル以下で暮らし、飢餓に苦しんでいる人々がアフリカやアジアには大勢いる。その背景の一つとして西欧社会の企業効率優先があることを思うと、何とも複雑です。

◇それにしても、津波で家族も家もなりわいの漁船も失った人たちの多くがもともと経済的弱者であり、「いのち」を失った人々も、多くが女性や子ども、高齢者だったことをある人が「神様はなぜ災害の被害者に弱い人ばかりを選ばれるのか」と嘆いていましたが、これには理由があるのです。

◇昨年、私は連続して来襲した大型台風の被災地のいくつかを見舞いましたが、歴史をひもとくと、土地が低く水害に見舞われるところに庶民の住宅地があり、武家屋敷や寺社は水害も津波も来ないところに立地しているんです。そして今だって、立地のいい所は土地代が高いから経済的弱者は住めないんですね。土石流に襲われたのが老人ホームや少年の保護施設に多かったのも、こういう施設も安い地価のところにならしか建てられないからなんです。

◇連続と続いているこの「いのち」の格差を災害などでは目の当たりにさせられる。この現実を変えたいの

ですが、人災の最たる「戦争」だってイラク戦争を見ればわかる通り、戦死者の多くは、巻き込まれて殺されるイラクの子どもたち。アメリカ兵も、アメリカの国内では大学に行けない貧困層の子弟が多いのです。

◇戦争のないわが国ですが、実は戦争でも自然災害でもない「目に見えない危機」がこの10年以上、みなさんのまわりにしひびひと、なお大きくなる可能性があります。それは「経済的危機」です。マネー敗戦と言われ、国民の莫大な個人資産を既に失ってしまった日本ですが、こういう時に真っ先に困難におちいり、そして回復力が最も遅いのは経済的弱者です。

◇その「経済的弱者」の一角に残念ながら母子家庭があるのです。現在、母子家庭は122万5,400世帯で、全世帯の2.7%。全体の9割が生別世帯です。この20年、母子家庭の経済状況をよくするために努力してきましたが、経済の悪化を反映し、比例して状況は悪化しています。持ち家率15.6%。就労による年収162万円。常用雇用者は40%、不安定なパート、臨時、派遣が53.2%を占めています。

◇この状況を何とか改善しなければ、子どもたちだって安心して生きていけません。少子化少子化と騒ぐだけでなく、今、この国で生きている子どもを大切にできるように、もちろん子どもだけでなく、人々の「いのち」と暮らしを守れるよう、目に見えない危機にしっかり対応できる国でありたいものです。（円より子）

「とこにありあふ
その思いが
こどもを育て
たいなる
力に
あるんだよ」



特○集：鼎談第二弾 「引きこもりの子どもたち」

【語り手】 浅野 誠

千葉県精神科医療センター医療局長

プロフィール

1946年新潟県上越市に生まれる。千葉大学医学部卒。精神科臨床医歴30年。著書に「ビジネスマンの精神病棟」（ちくま文庫）ほか。「ビジネスマンの精神病棟」は電子図書としても出版されている。毎号ハンド・イン・ハンドの表紙の絵を描いてくださっている浅野照子さんのご夫君でもある。

【聞き手】 円より子 参議院議員／現代家族問題研究所代表

【語り手】 竹信 三恵子

朝日新聞東京本社生活部記者

プロフィール

1976年朝日新聞入社。経済部記者、シンガポール特派員、学芸部次長（家庭面デスク）などを経て04年2月より現職。女性と労働、女性と社会政策をめぐる連載記事などを多数手がける。「日本株式会社の女たち」（朝日新聞社）、「ワークシェアリングの実像～雇用の分配か、分断か」（岩波書店）など著書多数。

円：最近引きこもりなどの若者の問題が起きています。先日19歳と28歳でしたが、ある程度大人の領域に入った子どもたちが両親を殺したという事件もありました。家族の力が落ちているのか、地域の力の低下なのか、社会の変容なのか、ここで改めて「家族って何なんだろう」というお話ができればいいと思って今日はお集まりいただきました。

実は政治の世界で何かそういう子どもの事件や家族の事件が起きると必ず教育基本法を変えなきゃいけない、挙句の果てには憲法24条まで変えなきゃいけないという意見が出てきます。個人の尊厳とか、そういうものを重要視し過ぎて、家族、家庭、お互いの協調などが軽視されているからこういう事件が起きるんだという方たちがいるんですね。そんな短絡的なことではないと思うんですけど。

まず浅野先生から、現場では今、家族や若い人たちがどういう状況になっているのか、お話をいただけますか。

浅野：精神科の医師を30年ほどやっています。円さんの言われたような今の子どもたちの状況をいっぺんに解説するのは非常に難しいので、まず現場で直面していることからお話

します。一つには引きこもりの少年、少女、青年も含めてですけど、非常に多いです。それから、親を殺してしまうところまではいなくても、似通ったような印象を持った少年、少女が非常に多いですね。実際にはそういう人たちの一部が精神科医のところに来るわけです。

精神科の病院は病気であれば対応しますが、病気でないに対応しません。引きこもりがイコール病気ではありませんし、病気だからこういう事件を起こすとは一概には言えません。しかし、引きこもりの子ども、いろんな事件を起こす子どもなどを一言で言う「人との関係がとれない人たち」ということになります。世の中にはいい人も悪い人もいます。でも付き合い方で人はみんな変わります。人間は関係の生き物である。そういうことがわからず、人と関わるのがとても下手だという印象を強く持ちます。

そういう子どもたちが病気かどうかは別の問題として、人との関係を持つという基本的訓練ができていない。結局家の中に逃げ込んでいるのは社会、すなわち赤の他人様との関係がとれないからです。「傷つきやすさ」という言い方もありますけれど、それも人との関係の中でしか

ないものです。そういう問題として捉えて考えていった方がいいかなと思っています。

竹信：記者をやって30年近くなります。経済部が長く、そのあとシンガポール特派員を経験して、家庭面にきました。企業と家庭の両方から日本社会を見てきたわけですが、家庭面から見ると、家族のバックグラウンドがかなり変わってきている。経済構造が激変しているんですね。ところが家族の容れ物がうまくマッチしていない。

それから長時間労働がものすごく増えて、家族に人々が関われない状況であるにも関わらず、負担は全部家族にきている。その落差がどんどん広がっている。

円：失業率が10代の後半、20代前半がとても高いんですね。せっかく学校を出ても就職できないという状況もある。中高年の失業問題も大きく年間3万4,000人の自殺のうち、50代の働き盛りの人の経済的自殺が増えています。年金だってちゃんともらえるかわからないし、将来を考えてもおもしろくなさそうだっていう重苦しい雰囲気が若い人の間にあって、希望がない社会に見えるようです。

両親を殺したような事件を見ると、何かそういう閉塞状態の社会の中で、いい学校に行って、いい会社へ就職しないと人生落ちこぼれになってしまうというような価値観が親にも祖父母にも周りの人にもあるのかなと思います。「ま、いいんじゃない」というのがなくて、視野狭窄になっていて、それが子どもを追い詰めているんじゃないかと、そんな感じがするんですけど。その子だけの「関係がとれない」という問題だけじゃないような。

浅野：別の側面から見て、今日くらいお母さんが子どもの面倒を見ている時代はあんまりないんですね。歴史的には、江戸時代とか明治時代は母親は働きに出ていたんです。野良仕事に行っていましたし、実際はほかの家族の誰かが見ていたんです。そういう「ファミリー」の中で暮らして

いたわけです。それが今全然なくなっているのは一つ大きな問題です。いまさら回復できないから言ってもしょうがないんですけど、ファミリーの力も明らかに低下しています。

地域社会の子ども同士のコミュニケーションも非常に乏しいですから、関係性をうまく複数の人でとっていくという訓練ができていないんですね。昔の村社会とは子どもたちのコミュニケーションの内容はだいぶ違っている。たくさんの人間関係を取り結ぶのが苦手なんではないかと思えます。そうするとどうしても親と子という「対」の関係しかなくなってしまうんですね。これはね、どうもあまり、心理学的によくありません。そこから離れられないですし、すべてのストレスもその関係の中に持ち込まれますので。気に入らないことがあると全部母親にいくし、いやなことがあると母親に寄りかかろうとする。そういう構造がどんどん強化されていっている。そういう中でいまの問題は起きてきたとは思っていますね。そういうところは是正していく必要があると思う。ただ、大きな問題は「ファミリー」の力が著しく低下しているということです。

円：昔マンションの5階に住んでいた時、娘がやっと小学校1年生になって、ある意味少し大人になったと思ったから出張の仕事を入れたんですね。それを話したとたん、娘がランドセル放り出して玄関のたたきに座ったまま、泣いて泣いてだっこしようとしてもテコでも動かない。昔だったら「そんなにお母さんを困らせちゃいけないよ」とか言ってくれる

近所のおじさんとかがいっぱいいたんですよ。今だってもし1階だったら誰か来てくれてたかもしれないけど、隣家はみんな共働きで出掛けてていないし、マンションという住環境はこういうときダメですね。それに、二人だけという関係性ってとてもきつとしみじみ思いました。

竹信：よくわかります。私の父親は3歳のときに亡くなっているんです。だから私はシングルマザーの娘なんですね。私の生まれた1950年代は、母が「昔はほんとに子育てが楽だった」というくらいファミリーの力も地域力もありました。

隣が植木屋さんと床屋さんでお店がたくさんあった。床屋さんにはたくさん見習いのお姉さんがいて、よく遊びに行っていました。親はいちいちじっと見ていなくても全然大丈夫だった。近所のお菓子屋さんからうっかりお菓子を持って来てしまっても、あとでお店の人が来て「お宅の娘さんが持って行ってしまったんだけど」ってちゃんとフォローしてくれた。今だったら警察に通報されて万引きになっちゃうでしょ。裏にも親戚がいて何かあるとご飯を食べさせてくれて、お風呂にも入らせてくれて。それに家の中には兄弟が3人いて、お嫁に行く前の親せきのお姉さんがお手伝いに来ていたんですね。間借り人もいたし、そこに必ず誰かがいるという状況でした。それを考えると地域力の中身がすごく違ってきているというのがよくわかりますね。

浅野：そういういろんな親しい人との関係の中で人の見方を学習するんですね。だから昔の子どもはめったなことでは悪い人にさらわれない。地域の人が見ているというのもあるけど、子ども自身にも力があった。この人はどういう人かということが昔の子どもはだいたいわかった。今の子はわからないんじゃないかな。それにマンションは最悪ですね。

円：私たちの子どもころは、夏なんかみんな縁台出して、セクハラじゃないけどそんなことをいうおじいちゃんもいるし、怪談やおもしろい話を



竹信 三恵子

してくれるおじいちゃんもいるし。ヘンなこと言っても本当はいい人なんだとか。今はそういう能力をみがく場がないんですね。

浅野：お母さんがすごくガードしちゃう。ガードせざるを得ない。お母さんは過保護にならざるを得ないんです。今の子は外の人に母親との関係の中で期待していることを同じように期待する。そうすると必ず裏切られるんです。そんなものを満たしてくれる人は誰もいないということがわからない。期待を裏切られるからすぐ引きこもるということになる。

僕は患者さんにはまず「人は必ず裏切るもんだよ」と言います。「人は裏切るものだということを前提に付き合わなくてはいけない」と。母親は裏切らない。満たそう満たそうとしますから。その中間がないですからね。で、引きこもってしまう。丈夫な子は大丈夫ですけど、ちょっとひ弱な子は出て行かなくなって中へ中へと引きこもるから、どうしたらいいかというとなかなか簡単ではない。

竹信：そういうことになってしまうには、かなり前からトラブルの芽はあったと思うんです。今はまた少し違う問題が加わっているかもしれないんですけど。

高度成長時代のイデオロギーとして「お母さんと子どもがいるのがふつうだ」、「お母さんが面倒を見なさい」というのがあった。お父さんは会社に行っているんだからしょうがないじゃないかと。何かあった場合必ず「お母さんはどうしたの」という時期が長かった。お金を稼ぐ



浅野 誠

以外は全部お母さんに期待されているわけです。介護もそうだし、子どもの面倒を見、教育をし、PTAに行き、結局何かひずみがあると家庭に女の人が一人いるんだからってなるわけです。私それを「女は押入れ」って言っているんですけど（笑）。面倒くさいものはみんな放り込んでパッと閉めちゃう。でもお母さんも一人の人間ですから、そんなにたくさんのお母さんのことを一人ではできない。

浅野：今建物も社会構造も引きこもるにはすごくうまくできているんですよ。それを引き出させて言ってるんじゃないんです。そうなってしまっているのはしかたがないんですけども、居住環境はものすごくいい。部屋がいっぱいあって、明日食べるものに困らない。お母さんはたいてい家にいますしね。3食用意してくれますし、当座何もいらないでしょ。

中には家庭内暴力という感じになってきて、ストレスを家の中で発散し、家を支配してしまう子どもも出てきます。ある意味子どもの王国ができてしまいます。そうなるとてもお母さん一人じゃ手に負えなくなってくる。で、お父さんも対応するんだけど、お父さんもとても手に負えない、何とかしてくださいと言って来るんです。

子どもはふつう外の人たちとのコミュニケーションの中でいろんなことを学習するんですが、そういう学習機会が幼稚園くらいの時はあったとしても、引きこもり出すとあっといふ間に崩れます。我々は日常的に人との関係の中にいないと自分自身の姿が見えなくなって崩れます。顔は鏡に映りますが、心は映りませんからね。どんな人でも人とのコミュニケーションを断たれると、自分の姿が見えなくなる。スパイを洗脳する時閉じ込めちゃうのはそのためです。

でも引きこもりの場合はお母さんさえいればこと足りてしまうので出て来ない。

円：働かなきゃいけないとなったらそんなことしてられないですよ。

浅野：実はね、いよいよ働かなくては

ならないときが来るんですね。それが大体25～6歳ぐらいで一山来るんです。それから40、50歳くらい。そのくらいの年齢の時にいろんな問題を起こすんです。いくらなんでもこのままじゃだめだと。お父さんが定年を迎えるのは、本人が40歳、お父さんが60台くらい。こういう見えざる壁がやってきた時に事件を起こすことが多い。その時に始めて、警察、最終的に精神病院で医者に関わることがある。全員じゃないが、そこで始めて発病することもあります。

自立して生きていかねばならないという壁に直面した時、それを克服する訓練ができていないのでうまくいかない。こういう時、自殺を試みたり、家族に向かって責任を転嫁して攻撃的行動をとることがあります。ただ、最近はインターネットなどの影響を受け、精神的に肥大しやすいため、いっきに攻撃が家の外にまで向かうことがあります。引きこもった子どもたちでもインターネットだけはやっていることがあります。インターネットのようなグローバルメディアは、それが作る仮想的現実で実際の現実を覆い隠し、まるで自分が世界の中心であるかのような錯覚を生み、精神的に誤った万能感を生むものです。

円：母子家庭みたいな必死で働いているお母さんの家はどうですか？食

物は冷蔵庫もあるし、コンビニに行けばあるけど、お母さんが働いている方がまだよくないですか？子どもも身体を動かさざるを得ないから。

浅野：いいですよ。お母さんが誰かとコミュニケーションして身体を動かして、しかもお金が入るでしょう。絶対そっちの方がいいですよ。

円：ところで新潟の地震の避難所に行ったのですが、山古志村の家や外で働いていた人たちがみんなに助けてもらうのはいいんだけど、足腰は弱るし気持ちも萎えると言っていました。

浅野：僕も「心のケア」に行ったんですけど、「みんなを朝6時にたたき起こしてラジオ体操しなさい」と。これが僕の心のケア。避難所は運動不足ですし、子どもも夜更かしになるしね。身体を動かさないとダメです。今の生活は避難所じゃなくても、電化製品はあるし生活運動体力がみんなないんです。こういった身体運動をさせることが引きこもりを防ぐことにもつながります。

日常生活運動とは、実は人をお世話する力ということでもあります。人と人との関係は多少なりとも互いにお世話し合うということにほかなりません。

円：今朝ニュースでね、台風被害の所も大変で、学校が使えないから保育園と学校の子が同じ施設を使っているという話がありました。小さい子





がお昼寝している時は静かにしているとか、小さい子を遊ばせるとかして随分活気づいたらしいです。いまの学校って、そういう人間関係はできないですね。もっと組み合わせを変えたらどうでしょうね。

竹信：そういう施設もできてきていますよね。高齢者施設と幼稚園をくっつけるとか、学年を縦割りにするとか。ちゃんと機能しているかどうか分からないけど。

浅野：学校の自然体験の庭とかもみんな枯れていますからね。中途半端にやってもうまくいかないと言いたかったんですけどね。自然体験なんかそんな簡単にできるもんじゃない。それと似たようなもので、人と人のコミュニケーションなんて学校だけでやろうとしても無理です。

浅野：僕は時々ヨットに乗ります。最近のヨットマンたちの悩みは若者の参入が少ないこと。どうしても大型の遊園地の電気仕掛けの乗り物を好む。ヨットというのは、風で動くもので環境にやさしいのですが、いつも傾いてゆれていますので、乗り心地はものすごく悪い。おまけにほっとくとすぐに傷むので、日常的に整備し続けなくてはならない。どちらかというとヨットは乗るというものじゃなくて、お世話するものです。ヨットマンは相当にめな人々です。また体験学習としても優れています。ヨットは乗ったら最後、陸に着くま

で何があろうと降りられないのです。そこにいる仲間と助け合って、激しい船酔いを耐え、嵐を乗り切らねばなりません。助けてもらえば仲間が神様みたいに見える。そういった体験が大切なのですが、若者は好まないようです。

竹信：私も山岳部の経験がありますが、山登りも一緒です。誰かが倒れると周りの人が楽になる。その人のためにペースを落とそうとか、助け合って登っていく。サバイバルって落ちこぼれた人をたいたりということではない。誰かが倒れたおかげで自分たちが助かるわけですから。そういう体験が自然にできるといいんですけどね。

浅野：震災の現場の阪神にも新潟にも行きましたが、あまり目的ははっきりしない人々もたくさん来ていました。火事場見物と言ってしまうかもしれませんが、むしろ人々の心の底に、どこかそういった流動的な状況を望む心理が芽生え出しているのではないかなと思えました。

今の日本社会にどこか身動きならない閉塞感があることを、誰しも感じ出していると思います。この閉塞感、助けてやりたいがそれもやりにくく、助けてもらいたい助けに現れないといったことも含まれているようにも思えます。

実際、ボランティアで働いていた人の中にも、もしこういうことがな

かったら、引きこもったままインターネットにふけるだけではなかったかと思われるような若者が多数いたことも確かなのです。彼らの中には、そうでなければめったにあり得ないような、人と人との生きた出合いを体験できた人もいました。

円：引きこもりの問題でいう、動物は巣立つ本能があるはずなのに、人間はなぜ哺乳類なのに巣立てないのでしょうか。

浅野：巣立つとは、それまでの人間関係から離れ、新しい人間関係を形成しなくてはならないということでもあります。親などとの関係とは違って、他人との関係は多彩で流動的です。流動的な状況でこそ、相互に助け合うことの大切さを学べるかもしれません。しかしそういった場合の関係も、家族との生活の中で培ってきた相互に助け合うという体験を基礎としています。

だから、たくさんの家族の中で育つ方が、他人との関係を作る場合はよいのですが、今はそうもいきません。ただ、私がここで申し上げたいのは、引きこもる子どもたちに特徴的なのは、こまめに身体を動かすことが苦手であるということです。そして、家族にだけでなく、どのようにしてやるのが他人への親切かがよくわかっていないことです。親切とは、たいていは自分の身体を動かしてやらねばならない。そして新しい人との関係を作るためにも、人にお世話する姿勢を持たねばならないということを体験的に学習していないと思えます。想像の中では人の役に立ちたいと強く思っているのにです。実際の人と人との助け合いとは、互いに育み合うような関係とも言えますが、それは動物や植物を育てることと基本的に変わるものではなく、結局は、手足を動かしてのめな生活運動を基礎としています。勉強も大切ですが、小さい時から食事を作ったり、部屋を整理したり、掃除や洗濯を子どもたちにさせることはそれに劣らず、人生にとって大きな意味を持つはずで

★ ★ ★ ★

家計簿公開

家計簿公開

第151号 東京都 K・Dさん

【家族構成】

私 41歳(会社員)

息子 11歳

【住居】

2K(実家に間借り)

家計簿内訳 2005年1月分

★収入★

給与 200,000円(手取り)

合計 200,000円

★支出★

家賃 35,000円

光熱費 15,500円

(内訳:電気10,000円、
ガス2,000円、水道3,000円)

通信費 13,000円

(携帯、プロバイダ、NTT)

食費 22,000円

医療費 5,000円

新聞代 2,850円

子ども費 10,000円

ローン 60,000円

保険料 25,000円

雑費 10,000円

貯金 20,000円

合計 218,350円

給与は残業代、休日手当がないため、毎月ほぼ定額です。

家賃は場所的に、本来ならば10数万円はかかると思いますが、実家に間借りしているので払える程度の金額を払っています。親子とはいえない、いろいろな面で世話になったり、迷惑をかけたりしているのでこれが精一杯の気持ち。

ローンの6万円は、代襲相続によるもので、私にしてみれば天から降って来た不幸みたいなもの。自分で何かを買ったのならまだしも、このマイナス相続で毎月とても苦しい状況です。利息を払うのがやっとで、元本が減らず、私が死んだあと息子と同じように引き継がなければならないかと思うととても辛いです。

光熱費に関しては、電気は動力を使用しているため基本料金が8,000円くらいかかってしまいます。これまた、痛い出費。けれど、お風呂は実家に入りに行くのでガス代が安くなるのと、安い家賃で暮らせているので、仕方ないかもしれません…。

貯金は、子どもが歯科矯正中なのでそのための積み立てと、万が一に備えての分が半々。塾や習い事でそのほか10,000円は子どものための

出費です。今は小学生だからこれくらいですむけれど、年々、食費、教育費、交際費などもかさむだろうと思うと、とても不安です。

養育費は、取り決めをしていなかったためもらっていません。というより、離婚後元夫が病気で障害者になってしまい、今後話し合いは無理だし、無論そのような状況で暮らしている人から、たとえ養育費とはいえ請求はできないと思っています。

年々減りつつある児童扶養手当、育成手当、区の教育委員会から出る就学援助金はなかったものとして別通帳で管理して、将来子どもの進学費用に当てるつもりです。

毎月きちんと家計簿をつけていないので、貯金が増えているのかわかりません。できる限り毎月の給料で、今はやりくりするのがやっと。時には貯金から引き出しているため、毎月の赤字はもっと多額だと思います。

子どもが猫を飼いたがっていますが、もう少し余裕ができないと、家族を増やすのは現状では無理…子ども一人っ子だしさびしいのだと思いますけれど。

★ ★ ★ ★

「養育費は収入と見なされる？」

愛知のお世話係 WITH: さんが新年会の様子を知らせてくれました(一部抜粋)。

1月9日の日曜日の午後に開いて大人9名、子供1名の参加者がありました。初対面の人もありましたが、和気あいあいという雰囲気を楽しめて早く時間が過ぎてしまいました。

その中で気になったお話をお知らせします。

子どもを三人連れて離婚されたNさんから「養育費は収入と見なされるのですか？」というご質問がありました。

これはなるんですね。平成14年8月1日の児童扶養手当の改正で「児童の父から受け取る金品などの8割を所得に加算する」と決まりました。

1か月5万円の養育費なら4万円…年間で48万円が母子家庭の所得になります。

児童扶養手当は所得制限があり、子ども一人で全額支給の1か月41,880円は年収が130万円以下です。養育費が全額支給されるには働いて得た収入が月6.8万円以下ということになります。1か月の生活費が10万円です。子どもを抱えてどうやって生活できるのでしょうか？本当に馬鹿な話ですが、ただそれを避ける方法はあります。それは養育費を母親以外の者に現金手渡ししてもらうことです。でもNさんの場

合は調停にかけたけど、養育費の振込先は自分名義の通帳なので今のままで収入になってしまいます。振り込み先の変更は元の夫に言っても私を困らせたいと思ってる人なので無理だと思うとのこと。

では「申告しなければ罰せられるか？」というご質問には何とも言えません。そんなわずかな収入の家庭を調べられるのか…とも思いますが、「母子家庭が増えている」という理由で調べられるかもしれません。

母子家庭の収入は一般家庭の三分の一だそうです！それなのに母子家庭(父子家庭)が増えているのは何なのか？皆さんにも是非考えていただきたいですね。

● ● ●

<大阪ニッコロ離婚講座>

原則、午後1時半～午後4時半まで、ドーンセンター
(大阪府中央区大手前1-3-49 ☎06-6910-8500)で。
参加費 講座：1,500円、ミニ講座：500円

3月19日(土)「身体ほくし心ほくし」

元宝塚の栗岡多恵子さん(ジャズダンスなどの講師を務めた方)

係争中や悩みを抱えている時に、あるいは日常生活のストレスで疲れた身体を緩めてみませんか。アロマオイルの香りに浸りながら身体も心もリラックスできるような優しいワークショップを予定しています。タオルかフロアシートをご持参ください。

4月16日(土) テーマは未定(離婚した親を持つ子ども) カウンセラー 松竹京子さん

<例 会>

原則、奇数月の第4土曜日の午後

場所は竹川法律事務所(大阪府淀川区西宮原1-4-15-602 ☎06-6393-1331)または、ドーンセンター小会議室

*変更の可能性がありますので、ハンド誌でご確認ください。

3月26日(土) 竹川法律事務所

<お知らせ>

5月3日か4日に高槻のジャズフェスティバル会場でピクニックを兼ねたバザーを開催します。詳細は5月号に掲載します。

お待たせしました!!
夏合宿のお知らせです

7月30日(土)～31日(日)、久しぶりに嵐山(埼玉県)で合宿を行います。今年のテーマは「アンチ・エイジング」!!

- 「心のアンチ・エイジング」について、円より子の話があります!!
- 年齢を感じさせないメイクアップのテクニックを実演!
- 高齢者施設で理容の講師をしている林正和さんも講演してくださいませ。
- 子どもに絵を描いてもらい、お母さんとの関係性を見る企画もあります。

場所：埼玉県比企郡嵐山町大字菅谷728

国立女性教育会館

(交通：東武東上線「武蔵嵐山駅」下車徒歩15分)

定員：大人40名/子ども10名

※詳細は次号でお知らせいたします。

※定員になり次第締め切りますので、「絶対行きたい!」という方は早めにお申し込みを。

※ベビーシッターをしてくれる方を募集しています。

※そのほか、アンチ・エイジングな楽しい企画を思いついた人は事務局までご連絡ください。

弁護士 一〇番



三八歳で、五歳の子どもの一人います。半年前に子どもを連れて家を出て来ましたが、原因は、共働きなのに夫が家事や育児にまったく協力せず、協力を求めてもまったく話にならず、そんな夫に対しては愛情もさめ、つい離婚を決意したのです。現在、離婚調停中です。離婚と親権を私がとることについては夫も合意していますが、面接交渉について合意ができていません。私は、これまで子どもや家庭をないがしろにしてきたのに、いままら面接を求める夫に腹が立つ上、子どもが夫になつていないことから面接は認めたくないのですが、応じないといけませんか? 養育費をもらうとかわさなければならぬのですか? 夫に面接権が認められた場合、私が応じなければどうなりますか?



離婚後に、親権者とならなかった方の親、もしくは監護者とならなかった方の親が、子どもと会い、交流する機会を持つことについては、民法上明文の規定はありませんが、実務上、面接交渉権として認められています。具体的には、家庭裁判所に、子の監護に関する処分の(民法七六六条)として、調停の申立ができます。調停で合意ができなかった場合には、家事審判事項として家庭裁判所が審判を下すことができます。これは、離婚によって子どもと離れて暮らすことになった親と子どもが、その後断絶するのではなく、交流によって

親子の関係を維持していくことが、子の成長にとっても、親にとっても幸福につながるという考え方によるものです。ただ、面接が子どもにとって悪影響を及ぼすような場合は、制限されることがあります。子どもを虐待していたり、母親へのDVを目撃していたために、父親への恐怖心があるような場合などです。また、子どもが幼くて、母親の協力がなければ面接を履行できないにも関わらず、DVによる恐怖心のために協力ができないという事情がある場合に、面接の申立を却下した審判例もあります。そのような特別な事情がない場合には、離婚調停で面接について合意することが多いです。母親の主観だけによって面接交渉を拒否することはできません。子どもがなつていないといっても状況により、子どもの気持ちも変わる可能性があります。面接交渉を通じて、子どもが父親の存在や愛情を感じて成長することも期待できるのではないのでしょうか。子どもの気持ちをどう捉えるかについて心配がある場合には、家裁の調査官に調査してもらうことも可能です。あなたが、面接の合意をしたのに合理的な理由もなく応じなければ、夫は家庭裁判所に履行勧告を求めたり、地方裁判所に面接強制を求めるなどの法的手段をとることもあり得ますし、不法行為として損害賠償を請求されることもあり得ますので、注意が必要です。

☎〇六―六三六四―〇二六九
弁護士 段林和江

告知板

東京:

抵

●1月の例会は久しぶりの方々の出席でした。たまには懐かしいお顔を見せてください。

●3月、4月ともフリートキングです。

4月2日(土)18時～

5月7日(土)14時～

※会場は麹町周辺の予定です。詳細は事務局までお問い合わせください。

愛知: WITH:

抵

●一人暮らしの食事は栄養を考えた、味わっておいしいものを……とはなかなかいきませんね。脂肪の少ない和食で簡単にできておいしい! クッキングをおしゃべりしながら習いませんか?

●日時: 3月20日(日)

13時～17時

●場所: 名古屋市天白区

ウイング・ティ4階

●会費: 2,000円

●申し込み先: 上記電話番号または

長崎:

抵

●最近はおしゃべりがテーマです。わが家に来られた方は、もちろんフェイシャルマッサージの練習台になっていただいています。どうぞどなたでも遊びに来てください。

連絡先: 上記電話番号または

各地のお世話係

仙台

群馬

埼玉

埼玉

静岡

香川

福岡

福岡

熊本

大分

広島

事務局掲示板

●人を殺しても生き返ると思っている子どもが多いとか。確かに魂は死なず、生き返ると私たちも信じているところもあるけれど。●人の死や痛みを教えることが難しい時代になっているのでしょうか。●コピーやインターネットの普及で、現実とバーチャルの区別、本物とコピーの違いがいまいちになっていることは事実。●子どもを閉じこもらせず、一緒にケガをするくらい走り回って遊ぶくらいが親にはできないのかしら。(円)

年が明けたと思ったらもう春。今年は4月下旬頃から、「家族問題」をテーマにした研修会を考えています。児童虐待や子どもの不登校、引きこもり、ニートの問題、父親の役割、養育費や面接交渉について、また人間関係や家族関係について等々、今、企画中です。自分や夫婦の関係性、子どもとの関係性を見つめ直したい方、4月になったら、お問い合わせ下さい。(向井)

お正月からいろいろなことが重なり、がんばろうと思っていたハンドの編集担当を今号でやめさせていただきます。力不足で皆様にはお届けしきれないことがたくさんあったように思います。でも離婚女性のために明るい道がひらけるよう、これからも別の場所でがんばりたいと思います。ありがとうございました。(小林)

ハンドからみなさんへ発信!!

現代家族問題研究所: <http://www.gendai-kazoku.jp>

円より子ネット: <http://www.madoka-yoriko.jp>

ニコニコ離婚ネット: <http://www.nikoniko-rikon.net>

★面接相談★

●原則第1、第3土曜日、14時～と15時半～

●料金: 5,000円/50分(ただし2日前の木曜日以降キャンセルされる場合は、キャンセル料2,500円がかかります)

●3月は5、19日

●4月は2、16日を予定しています。

※お気軽に事務局(03-3261-1835)までお電話ください。

離婚と母子の110番

●基本的に毎土曜日: 13時～17時

●3月は5、12、19、26日の4回

●4月は2、9、16、23日の4回

※無料で相談をお受け付けしています。

※一人で悩まず、気軽にお電話ください。



<購読料について>

期限切れの通知の入った時に、お振込みください。次の3通りの方法があります。

① 1年間3600円(送料共) ② 2年間まとめて前払いの場合、7200円を6000円に。

③ 出世払いもしくは免除(どうしても苦しい方は、いつでも遠慮なく申し出下さい)

[振込先] 各地の郵便局にて 00140-6-120542 ハンド・イン・ハンドの会